



ニッポンの事業競争力を強くする！ 事業継続等の新たなマネジメントシステム規格とその活用等による事業競争力強化モデル事業

事業概要	各グループ概要	取組紹介	イベント
	事務局通信	メディア掲載	

report 2013/7/24: **環境防災総合政策研究機構**
タイ水害の被災経験を糧にハードルの高い取組に挑む



グループ担当
 シニアコンサルタント
 内海 良

こんにちは、運営事務局の内海です。
 事業に参加している皆様が気持ちよく事業に取り組まれ、真の競争力強化につながるよう精一杯支援させていただきますのでよろしくお願い致します。

今回は私がコンサルタントとして支援している特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構様(以降「CEMI」と呼びます)の取組をご紹介します。

CEMI様は2011年にタイの大水害で被害を受けたロジャナ工業団地の事業競争力強化をテーマに掲げる取組です。

タイの大水害についてはもはや説明する必要もないでしょう。2011年7月から始まり3か月以上続いた洪水は、2011年11月5日の時点で446人が死亡、230万人が影響を受けたと見られ、世界銀行が試算した被害額は約3兆8千億円(※)に上る未曾有の大水害でした。ロジャナ工業団地については10月9日に浸水が発生し、排水完了が11月28日。浸水期間は約50日を数え、入居企業の直接被害は1.7兆円(世界銀行試算)にものぼりました。

※2012年12月時点

これらの経験を教訓としてしっかりと活かし、「タイの工業団地として初のISO22301認証取得」を目指し、入居企業の皆様に安心して同工業団地で事業を展開して頂くという取組です。

ロジャナ工業団地はタイ国の財閥であるヴェニチュブル家と住金物産の合併によって1998年に設立されています。

今回のグループメンバーには同工業団地に主管部として関わっている住金物産の方や、多くの入居企業の物流機能を担うRDC(Rojana Distribution Center Co.,Ltd)の親会社である住友倉庫様などがメンバーとして名を連ねています。

これらの関係者が一堂に会する打ち合わせはすでに5回を数えますが、それと並行して事務局メンバーが逐次集まり、鋭意BCMS構築作業を進めています。

その中でいくつか非常に難しい議論となったポイントがあるので、具体例を挙げつつ紹介していきます。



論点①: 適用範囲の区切り方について

今、ロジャナ工業団地近くには「洪水の心配無し」という日本語の看板が建てられています。

工 業団地としてISO22301が取得できるの?と思われる方、BCMSを正しく理解されている方だと思います。そうす。ISO22301は「事業」を「継続」する仕組みであって、様々な入居企業がそれぞれ別の事業を行っている工業団地では、入居企業も含めた企業をひと括りに事業として捉えることはできません。しかし確かに入居企業がグループとして行動することで、非常時の情報交換や人員の相互補完、グループとしての避難や防災グッズ、備蓄品のやりくりなどスケールメリットがでるのも事実です。

議 論中さまざまな意見が出た中で、ロジャナ工業団地を管理・運営するRIP(Rojana Industrial Park Co.,LTD)を適用範囲にしてはどうかという声がありました。RIPは電力や工業用水の給水・排水などを配下に置く組織です。このRIPを適用範囲とし発電や排水事業を継続することは入居企業の事業継続につながり、全体の競争力強化にも寄与するはずで、まさに探していた答えが見つかった感がありました。

論点②: 共通で動くことのルールづくり

事 業として見た場合はRIPとして綺麗な区切り方ができましたが、既にかいた非常時の情報交換や人員の相互補完などについては抜け落ちてしまいます。

ここは主に初動対応として、工業団地の入居企業が共通して理解すべきルールや助け合いの仕組みとしてまとめていきます。初動については教訓を最大限に活かせる部分と捉えており、実際に被災した企業へヒアリングも行い、当時の入居企業の被災時のニーズを漏らさず反映した内容にすべく取り組んでいく形になるでしょう。

論点③: 主役の不在と異文化の理解

作 業は主に日本で進めています、当然現地の方が利用するものであり、現場を良く知る方々と日本で議論を詰め、現地と確認を取りつつ進めています。

当然文化と言語の違いもあり、今後の計画書やルール作りのガイドラインなども英語で作成し、現地で教育や演習を実施し、きちんと現地に根付く形にしていく必要があります。



他 にもさまざまな議論がありますが、今回はこのあたりに留めておきます。参考になる部分などありましたでしょうか?

一 のロジャナ工業団地の取組は非常にハードルの高い内容をひとつひとつクリアして進んでいる状況です。しかしながら参加メンバーの皆様はとて前向きで、「実際に被災を経験したからこそ頑張れる」とよく口にされます。この精神はこれまで実施したハード面の対策(工業団地のまわりの防水堤防のかさ上げや団地倉庫の止水壁の設置、ITシステムおよび電源装置の高所移設)からも見て取れます。次はBCMSを通してのソフト面も含めた強化の番です。

被災を体験したからこそ、本当に生きるBCMSを構築する。

中間報告、そして成果報告でどのような成果がでるのか、私自身、非常にワクワクしています。🇯🇵🇯🇵